ライフスタイルの確立に関わる小児期の心理発達的要因の検討（第三報）
ー子どものパーソナリティと親の養育態度ー

大石　昂（富山大学）

要約：子どものパーソナリティと親の養育態度の関連について質問紙調査の結果をもとに解析を行った。因子分析の結果、親の養育態度として「支配」「競争志向」「受容」の三つの因子が、また子どものパーソナリティとして、「競争」「焦燥」「のんき」の各因子が抽出された。因子スコアに基づいて相関を検討したところ、親の「競争志向」的態度と子の「競争」性の間にはほとんど相関がなかった。親の「競争志向」と子の「焦燥」性の間に正の相関が、また親の「支配」的態度と子の「競争」性の間には負の相関が認められた。

見出し語：競争性、焦燥性、支配性、パーソナリティ、養育態度、富山スタディ、タイプA行動、MYTH

はじめに

Friedmanら（Friedman & Rosenman, 1959, 1974）の指摘したタイプA行動特性は、「一般に時間切迫と焦燥（time urgency and impatience）、攻撃ー敵意（aggressiveness-hostility）、競争性をともなった達成努力（competitive achievement-striving）、これら3つの下位特性を強く持つ特性」（山崎、菊野、1990）としてよく知られているが、その後の研究では、これらの特性が小児期以降の発達に関連していることが指摘されてきている。この観点から本稿では、第二報（大石、1995）に引き続き、幼児期における親の養育態度と子どもの性格特性の関連について検討を深める。

方法と手続き

（1）調査について

調査データは、第二報において使用したものである。すなわち1995年1月～2月に「お子さん、ご両親の生活習慣のアンケート」として実施された調査の結果から、（C）の子どものパーソナリティに関する25項目の回答と、（D）の親の養育態度に関する14項目の回答に関して解析を行う。

富山大学教育学部幼児心理学研究室
(Dept.of Infant Psychology. Faculty of Education, Toyama University)

なお、調査対象は、富山県西部の農村部に位置するO市に在住する、保育所または幼稚園に通う年中児とその母親であり、調査は、保育所と幼稚園を通じて実施した。回収された調査票の内訳は、表-1の通りである。

表-1　回収されたサンプル

男児	63
女児	52
合計	115

結果と考察

（1）子どものパーソナリティ

子どものパーソナリティについての母親の評定結果25項目を因子分析して得られた結果は、表-2に示すとおりである。

ここで得られた因子は次の三つである。

第1因子（F1-1）

「競争心が強い」「いろんな活動でリーダーになる」「ゲームをするとき、競争心が強くでる」などの項目で示されるところの、対人関係において競争を強く意識する性格特性であり、「競争性」と名付けることができる。

第2因子（F2-1）

「すぐにいらだつ」「気分の変化が激しい」「他の人のじゃまをする」「喧嘩ばやい」などの項目で特徴づけられるところの、いらいらした攻撃的な性格特性であり、「焦燥性」と名付けることにする。

第3因子（F3-1）

「友達に腹を立てることはまれである」「朝はなかなか起きてくれない」などの項目で特徴づけられる、のんびりとした穏やかな性格特徴であり、「のんきさ」と名付けることとする。

（2）親の養育態度

親の養育態度について母親自身の評定による14項目の因子分析結果は、表-3に示される。

ここで得られた因子は次の3つである。

第1因子（F1-2）

「子どものペースに合わせられなくていらいらすることがある」「何をするにもつい子どもに命令口調になってしまう」「子供が親の言うことを聞かないとついカッとしてしまう」などの項目で特徴づけられる支配性の強い養育態度で、「支配性」と名付ける。

第2因子（F2-2）

「競争心（闘争心）の強い子どもに育てたい」「わが子が競争に負けると自分のことのようにくやしい」などの項目で特徴づけられる、子どもに競争を強いることの多い養育態度であり、「競争志向性」と名付ける。

第3因子（F3-2）

「子どもがものをほしがると結局買い与えてしまうことが多い」などの項目で特徴づけられ、さらに「子どもが何かするときは、できる限り親は手を貸さないようにしている」という項目に「そうでない」と回答するような、甘やかしの強い養育態度であり、「受容性」と名付けることとする。

パーソナリティと養育態度に関するこれらの因子は、調査項目の設定においてMYTH（日本版）を参考にしたことに由来しているのはいうまでもないが、同時に調査項目の妥当性を示す結果でもある。

（3）因子間の関連

表-2　子どものパーソナリティに関する因子負荷量

QUARTIMAX rotation　1 for extraction　1 in analysis　1 - Kaiser Normalization.
QUARTIMAX converged in 5 iterations.
Rotated Factor Matrix:

	Factor 1	Factor 2	Factor 3
C01	.71314	.16807	-.13608
C02	.44004	.35992	.17188
C03	.34675	.45556	-.30832
C04	.51408	.24112	-.05661
C05	-.08524	-.05371	.59636
C06	.06547	.67707	-.14673
C07	.62861	.10375	.27474
C08	.29584	.65784	-.12639
C09	.63299	.02797	.26712
C10	.25908	.50926	.22191
C11	-.00577	-.31768	.42758
C12	.70844	-.15891	-.07279
C13	.07748	-.36539	.03907
C14	.45980	.04870	-.20278
C15	.63175	-.04231	.37205
C16	.78488	.21481	.03184
C17	.35765	.67291	-.12119
C18	-.52089	.15370	-.22912
C19	-.37458	.52117	.18820
C20	.09700	-.14595	.44361
C21	.26558	.07094	.51754
C22	-.39630	.10933	.11920
C23	-.26611	.47662	.09726
C24	-.03513	.24974	.54180
C25	.07480	.71895	.02186

表-3　親の養育態度に関する因子負荷量

QUARTIMAX rotation　1 for extraction　1 in analysis　1 - Kaiser Normalization.
QUARTIMAX converged in 7 iterations.
Rotated Factor Matrix:

	Factor 1	Factor 2	Factor 3
D01	.21525	.53225	.31437
D02	.45839	-.14306	.39859
D03	-.04494	.25263	-.68572
D04	.06532	.72964	.01470
D05	.60108	.33059	-.07104
D06	-.55781	.23139	-.03135
D07	.68140	.08776	-.00904
D08	.11847	.60484	.03895
D09	-.22053	.33606	-.16208
D10	-.05424	.07052	.41461
D11	.51895	.25951	-.11004
D12	.04557	.39314	.67072
D13	.59488	.35103	-.18337
D14	-.59734	.10635	-.15284

上記に示された各３つの因子に関し、回答者の因子得点を求め、子どものパーソナリティと親の養育態度の関係について検討した。相関係数は、表-4に示すとおりである。

表-4 - Correlation Coefficients - -

	FAC1_1	FAC2_1	FAC3_1
FAC1_2	-.2286	.1932	-.0888
	(102)	(102)	(102)
	P= .021	P= .052	P= .375
FAC2_2	-.0060	.2070	.0515
	(102)	(102)	(102)
	P= .953	P= .037	P= .607
FAC3_2	.0383	.0634	-.1311
	(102)	(102)	(102)
	P= .702	P= .527	P= .189

(Coefficient / (Cases) / 2-tailed Significance)

表-4において示されているのは以下のことである。

親の競争志向性は、子どもの競争性との間には相関がほとんどなく、子どもの焦燥性との間に弱い相関が認められる。

また親の支配性も、子どもの焦燥性との間に有意ではないものの弱い相関が認められるが、逆に子どもの競争性との間には弱い負の相関が認められる。

親の養育態度と子どものパーソナリティの関連は、これに見られるように必ずしも単純ではなく、屈折した関係性が認められる。

文献

Friedman, M., & Rosenman, R.H. Association of specific overt behavior pattern with blood and cardiovascular findigs. Jornal of the American Medical Association, 1959, 169, 1286-1296

Friedman, M., & Rosenman, R.H. Type A behavior and your heart, 1974, Knopf, N.Y.

Steinberg, L. Stability (and Instability) of type A behabior from childhood to young adulthood, Developmental Psychology, 1986, 22, 393-402

山崎勝之，菊野春雄，日本語版幼児用Type A検査（ＭＹＴＨ）の作成，心理学研究，1990, 61, 155-161

大石　昂，ライフスタイルの確立に関わる小児期の心理発達的要因の検討（第二報）－子どものパーソナリティと親の養育態度－，厚生省心身障害研究「小児期からの健康的なライフスタイルの確立に関する研究」（主任研究者福渡　靖），1995, 176-180

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:子どものパーソナリティと親の養育態度の関連について質問紙調査の結果をもとに解析を行った。因子分析の結果、親の養育態度として「支配」 「競争志向」 「受容」の三つの因子が、また子どものパーソナリティとして、 「競争」 「焦燥」 「のんき」の各因子か抽出された。因子スコアに基づいて相関を検討したところ、親の「競争志向」的態度と子の「競争」性の間にはほとんど相関かなかった。親の「競争志向」と子の「焦燥」性の間に正の相関が、また親の「支配」的態度と子の「競争」性の間には負の相関が認められた。